

**CASBEE-広島 2014年版**  
**(仮称)広島八丁堀開発計画**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.39</b>		-			<b>3.3</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.3</b>	0.17	<b>2.8</b>	1.00			<b>3.2</b>
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1.2 遮音		<b>4.8</b>	0.40	<b>3.7</b>	0.40			
1 開口部遮音性能	遮音性能T2以上のサッシを採用した	5.0	0.95	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能	客室において界壁遮音性能Dr-50以上の間仕切を採用した	1.0	0.05	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		4.0	-	2.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.9</b>	0.37	<b>2.6</b>	1.00			<b>2.8</b>
2.1 室温制御		<b>3.7</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50			
1 室温		3.0	0.41	3.0	0.57			
2 外皮性能		3.0	0.23	3.0	0.43			
3 ゾーン別制御性	冷暖同時の空調機を採用し、ゾーニングに配慮した	5.0	0.36		-			
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.3</b>	0.19	<b>3.3</b>	1.00			<b>3.3</b>
3.1 昼光利用		<b>4.0</b>	0.35	<b>4.2</b>	0.30			
1 昼光率	ロビー、客室においてそれぞれ2.5%、1.25%以上の昼光率とした	5.0	0.55	5.0	0.60			
2 方位別開口			-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.45	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		<b>1.0</b>	0.27	<b>3.0</b>	0.30			
1 昼光制御		1.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.14	<b>3.0</b>	0.15			
3.4 照明制御	照明を細かい単位で制御可能な計画とした	<b>5.0</b>	0.24	<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.27	<b>4.0</b>	1.00			<b>3.9</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を全面的に採用した	5.0	1.00	5.0	1.00			
2 アスベスト対策			-		-			
4.2 換気		<b>2.9</b>	0.30	<b>2.3</b>	0.38			
1 換気量	30CMH/人を確保し、建築基準法の換気量(20CMH/人)の1.4倍以上	5.0	0.49	5.0	0.33			
2 自然換気性能		1.0	0.03	1.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.49	1.0	0.33			
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20		-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.19		-			
2 喫煙の制御		3.0	0.81		-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.9</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00			<b>2.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.9</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性		1.0	0.02	1.0	0.50			
2 高度情報通信設備対応	各客室にCat5eのLAN配線によるLAN受口を設置した	1.0	0.02	5.0	0.50			
3 バリアフリー計画		3.0	0.95		-			
1.2 心理性・快適性		<b>2.9</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.40			
1 広さ感・景観	客室の天井高を2.5m以上とした	3.0	0.05	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		2.0	0.03		-			
3 内装計画		3.0	0.91	3.0	0.50			
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計	外装、内装に耐候性、防汚性の高い建材を採用した	4.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50		-			
3 衛生管理業務			-		-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.3</b>	0.30		-			<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.50		-			
1 耐震性		3.0	0.80		-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>4.1</b>	0.30		-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	補修必要間隔30年以上	5.0	0.20		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	補修必要間隔11年以上~20年未満	4.0	0.10		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外ダクトはガルバリウム鋼板製のダクトとした	5.0	0.10		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種以上にB以上を採用し、Eは不使用	5.0	0.20		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.5</b>	0.30	<b>2.4</b>	1.00	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.12	<b>1.8</b>	0.50	
1	階高のゆとり	客室階以外の階において、階高3.9m以上	5.0	1.00	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.12	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.77	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3~13階は屋外にケーブルラック設置。その他は屋内にEPSを適切に	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	屋内にEPSを適切に設置	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.31</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		パースによる外観の検討を行い、まちなみに配慮した計画とした	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI値が0.9以下	<b>4.5</b>	0.19	-	-	<b>4.5</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		2階にトップライトを設置し、自然採光を計画した	<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI 非住宅 0.70 住宅(専有部) -	<b>4.0</b>	0.51	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI値が0.9以下	<b>4.0</b>	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水こま及び節水型便器を採用した	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.2</b>	0.60	-	-	<b>3.2</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.11	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.22	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.22	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み</b>		内装仕上げ材を乾式工法とし、躯体と仕上げが容易に分別できる構造	4.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		有害物質を含まないシーリング材を採用した	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		1.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率90%	<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	LEDを採用し、サーチライト、レーザーは使用しない	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	